

令和4年度 施策評価シート

基本目標		地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくる
政策	210	多様な都市機能が調和したまちをつくる
施策	211	職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める
施策の目標	多様な都市機能が調和したまちとなるため、職・住・学・遊の調和する総合的・計画的な土地利用が進み、地域の特性に応じたまちづくりのルールが確立することで、誰もが快適に活動をしています。	

施策番号

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「地域の特色を生かしたまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				50.0%					63.0%
実績	47.2%				61.0%					
指標名	地区整備計画区域面積									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	-				97.0ha					99.0ha
実績	85.9ha				92.2ha					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
<p>「地域の特色を活かしたまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合について、目標を達成するためには、文花地域を中心に、大学・地域・区が緊密に連携し、魅力的な大学のあるまちづくりを進めていく必要がある。連携を行ううえでは、区民が気軽に大学の活動に参加できる仕組みづくり、環境づくりが極めて重要である。</p> <p>また、大学の知を活用した最先端の研究や社会実験等を通じて、多様な人材や投資を惹きつける、魅力あるエリアとなるよう整備を進めていく必要がある</p>	R1	926,325
	R2	2,527,311
	R3	73,104

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
A	iU 情報経営イノベーション専門職大学や千葉大学等の知見を活かした連携を通じて、「大学のあるまち」として、区や地域を巻き込んだ公民学の連携による特色のあるまちづくりを進められ、成果が期待できる。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
iU 情報経営イノベーション専門職大学の開学及び千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設に伴い、大学の知見を最大限活用して地域課題の解決を図る必要があり、緊密に連携すると共に、必要な資源の投入も不可欠である。	
【今後の具体的な方針】	
区・千葉大学・iU 情報経営イノベーション専門職大学・関係団体等により構成される公民学連携組織「アーバンデザインセンター(UDC)すみだ」を通じて、大学のあるまちづくりを推進していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	目的に対する指標	
					年度目標値	直近の評価内容
					年度実績値	評価結果
1	大学のあるまちづくりの推進	73,104	14,953	88,057	20	改善・見直し
					29	令和3年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

事業番号

